

理想を実現できる道東にする「マス・ローカリズム」の実践

—[第3回都市地域セミナー] 一般社団法人ドット道東 中西拓郎代表理事の基調講演から

安富 啓 株式会社 石塚計画デザイン事務所 / 日本都市計画学会北海道支部 幹事

1. 「都市地域セミナー」の概要

北海道支部では、都市計画・まちづくりの第一線で活躍する実践者・研究者等を講師に招き、意見交換を行う都市地域セミナーを毎年開催している。

2023年度3回目(2023.12.2)となる今回は、「マス・ローカリズム(個性・主体性に基づいた現場からの地域づくり)」をテーマに、中西拓郎代表理事(一般社団法人ドット道東)から基調講演をいただいた。

本テーマは、社会課題先進地と言われる北海道において、地域資源や人材のポテンシャルを最大限に引き出し、地元関係者が共創しながら取り組むボトムアップ型の地域づくりが不可欠という問題意識から設定したものである。本稿では、中西氏の基調講演から、道東で展開されるマス・ローカリズムを紹介したい。



[写真] 一般社団法人ドット道東 中西拓郎代表理事
道東エリアを対象に、地域課題解決に係る多様なプロジェクトを手掛ける。プロジェクトごとに持続可能な実践チームを組み、関係人口・活動人口を増やしながら地域課題の解決を図っていくプロセス・メソッドは全国から注目されている。

2. ドット道東から学ぶ

「マス・ローカリズム」の実践ポイント

ボトムアップ型の地域づくりには、地域の良さを積極的に「価値化」すること、その価値を主体的に地域づくりに活かそうと実践する「人」が存在することが不可欠だ。言い換えると、①実践者の発掘・育成の方法論、②地域資源の価値化の方法論の2つがマス・ローカリズムの推進に求められる基礎的要件と言えるのではないかと。

基調講演で紹介いただいたドット道東出版「道東のアンオフィシャルガイドブック「.doto」(2020年6月発行)」の制作過程から、この2つの方法論のあり方を考える上で学びとなるキーワードを紹介したい。

①実践者の発掘・育成の方法論

～自分ゴトとして地域を語る体験を提供する～

ガイドブックは、数名の編集スタッフではなく、クラウドファンディングで募った約50名で制作されている。自分の住むまちを雑誌としてアウトプットする作業は、自分の言葉で地域を語る体験を提供してくれる。その体験によって、人は地域への愛着・誇りを育み、地域づくりを実践する原動力を養うことになる。

②地域資源の価値化の方法論

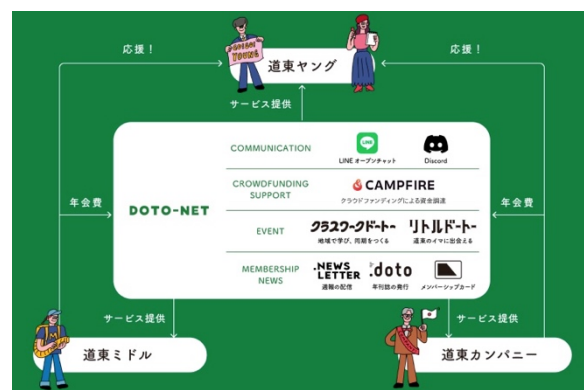
～ブリコラージュ的な付加価値の創造～

地域資源の価値を顕在化させるため、取材、インタビュー、座談会などを通じて、地域資源の丁寧な捉え直し作業が行われている。この作業を通じた資源と物語(経緯・歴史・思い出・エピソード等)のブリコラージュによって、他にはない付加価値が生まれている。

3. 「マス・ローカリズム」を実装する「DOTO-NET」

ドット道東では、これまで培ってきた無形資産(つながり、情報、メディア等)を道東に関わる若者がだれでも活用できるオープンソース「道東資本」として提供し、若者のチャレンジを応援する仕組み「DOTO-NET」をスタートした。具体的には、起業等を目指す「道東ヤング(29歳以下)」と、情報・ノウハウ・資金面で応援する「道東ミドル(30歳以上)」「道東カンパニー(道東に拠点を置く企業)」をマッチングする会員制サービスである。そのほか、クラウドファンディングを活用した資金調達支援やイベントを通じた交流支援なども行われる。

「DOTO-NET」をツールとして次世代が展開するこれからのマス・ローカリズムに大いに期待したい。



[図] 「DOTO-NET」の仕組み